

平成 2 8 年度

事 業 報 告 書

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

学校法人 高野山学園

目 次

I. 法人の概要

1. 法人の目的
2. 設置する学校の所在地等
3. 設置する学校・学部・学科等
4. 入学定員及び学生数
 - (1) 高野山大学
 - (2) 高野山高等学校
 - (3) 高野山幼稚園（高野山こども園）
5. 役員・教職員数
 - (1) 役員
 - (2) 教職員数

II. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部
2. 高野山大学
 - (1) 事業の概要
 - (2) 教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み
 - (3) 密教文化研究所の活動
 - (4) 図書館の活動
3. 高野山高等学校
 - (1) 総論
 - (2) 現状
 - (3) 事業報告
 - (4) 事業の概要
4. 高野山幼稚園（高野山こども園）
 - (1) 事業の概要
 - (2) 今後の課題

I. 法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法に従い、仏教精神に則り、大学、高等学校、その他の教育施設を設置し、社会に貢献できる有能な人材を育成することを目的とする。（『学校法人高野山学園寄附行為』第3条）

2. 設置する学校等の所在地等

設置する学校等	所在地	事業所長
高野山学園 法人本部	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL：0736-56-2922	本部長：芝田 啓治
高野山大学	〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山 385 番地 TEL：0736-56-2921（代）	学長：乾 龍仁
高野山高等学校	〒648-0288 和歌山県伊都郡高野町高野山 212 番地 TEL：0736-56-2204（代）	校長：小野 芳幸
高野山幼稚園 （高野山こども園）	〒648-0211 和歌山県伊都郡高野町高野山 26-5 番地 TEL：0736-56-2320	園長：佐々木基文

3. 設置する学校・学部・学科等

学校名	学部等		
高野山大学	文学部	密教学科、人間学科	
	大学院	文学研究科	密教学専攻修士課程・博士後期課程
			仏教学専攻修士課程・博士後期課程
			密教学専攻修士課程（通信教育課程）
	別科		
高野山高等学校	全日制課程 普通科		
	全日制課程 宗教科		
	広域通信制課程		
高野山幼稚園（高野山こども園）			

4. 入学定員及び学生数（平成 28 年 5 月 1 日現在）

（1）高野山大学

	学科名	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
文学部	密教学科	30	26		103
	人間学科	20	2		7
	計	50	27	200	110
大学院	密教学専攻 修士課程	13	3	26	13
	博士後期課程	3	0	9	1
	修士課程（通信教育課程）	20	32	40	142
	仏教学専攻 修士課程	8	1	16	1
	博士後期課程	3	0	9	0
	計	47	36	100	172
	別科	30	14	60	28

(2) 高野山高等学校全日制課程

全日制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	60	36	360	116
宗教科	20	6	90	19
計	80	42	450	135

通信制課程

区分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
普通科	900	3	900	19

※通信制の入学者は年度途中からの転編入学生が多く、平成29年3月31日時点の生徒数は36名である

(3) 高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	収容定員	幼児数
こども園	96	81

5. 役員・教職員数（平成28年5月1日現在）

(1) 役員

役職名	氏名	現員	定数
理事長	添田 隆昭	1	1

役職名	現員	定数
理事	10	10
監事	3	3
評議員	21	21

(2) 教職員

①法人本部

区分	専任職員	契約職員
事務局	1	1

②高野山大学

区分	学長	教授	准教授	助教	非常勤講師
教育職員	1	9	5	6	28

区分	専任職員 (契約含)	非常勤職員
事務職員	22	6

③高野山高等学校

全日制課程

区分	校長	教頭	専任教諭	非常勤講師
教育職員	1	2※	15(2)	13

区分	専任職員
事務職員	15

区分	非常勤職員
事務職員	2

※通信制課程 教頭1。その他の通信制教職員は、全日制教職員兼務。

④高野山幼稚園（高野山こども園）

区分	園長	専任教諭	契約教諭	非常勤講師	非常勤職員
教育職員	1	4	4	3	2

II. 事業の概要

1. 高野山学園法人本部

平成28年度に学園創立130周年を迎え、学校法人全体のさらなる飛躍を目指し、本学園における様々な施策を行ってきた。

創立130周年記念行事としては、10月に記念式典・記念法会・記念講演会、11月にダライ・ラマ法王14世による灌頂、講演等を行った。

法人本部の主な取り組みとしては、理事会運営のガバナンス強化、学生・生徒のための教育支援・環境整備、適正な大学・高校運営と情報公開、地域との連携による社会貢献であり、本学園の経営強化を図ることに努めた。

今後も険しい道のりではあるが、学園のさらなる発展を目指していく。

2. 高野山大学

(1) 事業の概要

高野山大学は、日本で初めて一般庶民に開かれた教育機関を構想した弘法大師・空海の思想に基づき誕生した大学であり、人間性に富んだ人材を育成し続け、卒業生は1万人を超える。世界中の人々が集う高野山の地で、未来を担うリーダーを「新しい学び」で育てることに努めている。

平成28年度には、創立130周年を迎え、ブランディングの原則（知名度アップ、独自性の追求、ファンの増加）に基づき、募集広報やカリキュラム、学生支援、関連機関との連携など多様な改革を実施してきた。

募集広報では創立130周年を機に新聞、各メディアなどを利用し、積極的にPRを行い、本学の特徴を打ち出すため、人間学科のコース制導入や、密教の学びの魅力を発信し続けてきた。平成30年度に向けて、大胆なカリキュラム改革を予定しており、さらなる学びの充実を図っていく。

学生へのサポートでは、学生の満足度の向上を目指し、「入学してよかった」と思ってもらえる大学にするため、教職員が一丸となってサポート体制の強化に努めている。具体的には、教員によるアドバイザー制度の導入、僧侶以外の道を選ぶ学生の就職支援等である。

また、外国人留学生や社会人の受け入れを行うため、留学生向け入試や留学生専用寮の整備、難波サテライト教室の開設、社会人入学生への奨学金などの制度を新たに設けた。

また、職員の能力向上を目指し、職員研修を計画的に実施し、職務遂行能力の改善に努めている。

(2) 教育・研究および経営に関する改善・改革の取り組み

■大学カリキュラム改革

- ア. 人間学科コース制導入（地域デザインコース・日本文化コース・心理ケアコースの3コースを設け、専門性を深められる学びを提供）
- イ. 密教学科新カリキュラム導入に向けての検討（平成30年度改編に向けて、「社会に必要とされる僧侶」を育成するための抜本的な新カリキュラムを構築する）

■学生支援の強化

- ア. 教員アドバイザー制度導入（学生一人ひとりへの徹底したサポート）
- イ. 就職支援の充実（1回生就職への意識が高まる講義を行い、段階的にステップアップするプログラムを構築）
- ウ. 保護者懇談会の実施

■留学生受け入れ体制の構築

- ア. 留学生受け入れプログラム策定
- イ. 日本語教育の充実
- ウ. 留学生向け奨学金制度の新設
- エ. 留学生用の寮の整備
- オ. 英語版・中国語版HPの新設
- カ. 海外の大学との提携

■社会人受け入れ体制の構築

- ア. 難波サテライト教室の開設（主に人間学科心理ケアコースで活用）
- イ. 社会人向け奨学金制度の新設
- ウ. 社会人を対象とした高野山大学連続講座（於：中之島サテライト）の実施

■高校、他大学や地域との連携

- ア. タイ国大学（Rajamangala University of Technology）とMOU締結
- イ. 学校法人千代田学園（大阪千代田短期大学・大阪暁光高校）との連携協定締結
- ウ. りら創造芸術高校との連携協定締結
- エ. 河内長野市民大学「くろまる塾」との連携（講座の提供）

オ．高野町と連携し「高野山学」の講座開講

カ．高野山高校との高大連携強化

■私立大学ブランディング事業の実施

文科省私立大学ブランディング事業として採択されたため、平成28年度から五カ年にわたり、大学のみならず高野山全体のブランディングを前提とし、プロジェクトを進めていく。密教の学術的研究の促進と、世界遺産・高野山ブランドを兼ね備えた「高野山アーカイブ」を構築し、長期的に豊かな内容のものに進化させていく予定である。

■高野山霊宝館との博学連携プロジェクトの推進

霊宝館と高野山大学との博学連携プロジェクトとして霊宝館の所蔵する御影堂文書の資料をデジタル化し整理・保管・調査を進めた。

■学生募集の強化

ア．オープンキャンパスの充実（開催回数を増やし、内容の充実を図った）

イ．広報物の充実（大学案内の充実、新たな広報物の発行を図った）

ウ．高校訪問・進学説明会への積極的参加

（３）密教文化研究所の活動

1. 事業方針および成果の概要

平成28年度、密教文化研究所では、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」「密教の形成と流伝に関する研究」「密教と現代社会の諸問題に関する研究」を事業の3つの柱として、諸活動を活発に行った。

先ず、「弘法大師の思想とその展開に関する研究」に関して、前年度発足の「弘法大師著作研究会」では、引き続き定期的に学内外の研究者が集う場を設けて、研究の深化だけに止まらず、学術交流においても大いに意義があがった。また、「南山教学研究会」でも同様に、昨年引き続き山内住職会と連携しながら、高野山の勸学会実修に協力するなど活動の場を広げた。

次に、「密教の形成と流伝に関する研究」では、「南山進流声明研究会」において、昨年に続いて学内外の僧侶が定期的に伝授を受けて、実学的な研究の場を確立した。また、平成28年度から「中世密教聖教研究会」を立ち上げて、本学図書館と西南院が所蔵する

当該資料の調査研究を行った。

次に、「密教と現代社会の諸問題に関する研究」では、二十一世紀高野山医療フォーラムを開催し、「フジキン小川修平記念講座講演会」では、10月および2月に講演会を開催して、いずれも同課題に関して広く社会への普及に努めた。

なお、研究所の刊行物として以上の研究成果を年間の『密教文化研究所紀要』第30号の他に、同紀要の別冊として下記の2冊を刊行した。

2. 事業成果の詳細

各事業の詳細な活動報告を紹介すると以下ようになる。

○研究所研究会 活動実績

表1 活動実績

日程	発表者	発表内容
9月30日	鈴木晋怜	伝統の創造－真言密教の実践的展開における教学の位置づけ－
	岡田英作	瑜伽行派における種姓説の展開
10月14日	北川真寛	五仏心王について－論義書を中心に－
	土居夏樹	「理法身説法」について
11月18日	黒木賢一	ユングにおける東洋－精・気・神、そして自己－
11月25日	湊田雲溪	南山進流における流伝について
12月2日	大柴清圓	大名草彦命高野明神説－丹生氏の“外戚”の初祖として－
1月13日	蒲池和憲	「資料紹介－伝授類聚鈔(并に雑攷)」
	趙 新玲	<<諸阿闍梨真言密教部類總録>>の成立について
1月27日	八木高秀	清瀧智龍「高祖の医療観」(『高祖の聖影』六大新報社)と背景
	室寺義仁	「人を愛する」観方について－「大悲」の教えに立って観る－

○弘法大師著作研究会 活動実績

表2 『秘藏宝鑰』の研究会を原則として月2回行った。

担当箇所	日程	担当者
第四住心	4月14日、4月27日、5月12日	松長恵史
	5月19日、6月9日、6月23日、7月21日	櫻木 潤
	7月28日	松長恵史
第五住心	10月6日、10月27日、11月10日、11月24日	トーマス・ドライトライン
第六住心	11月24日、12月8日、12月15日	加納和雄、土居夏樹
第七住心	1月12日、1月26日、2月9日	那須真裕美

○南山教学研究会 活動実績

表 3 輪読会

内容	日程	担当者
四仏会座	5 月 26 日	北川真寛
遍計所執捨不捨義	6 月 30 日、7 月 21 日、11 月 24 日	土居夏樹
無尽莊嚴藏	12 月 22 日	高柳健太郎
	1 月 27 日	小田龍哉
初地即極	3 月 23 日	平賀由美子

表 4 研究発表

発表内容	発表場所	日程	発表者
「遍計所執捨不捨」について	密教研究会学術大会	7 月 8 日	土居夏樹
理法身説法について	表 1 参照	10 月 14 日	
五仏心王について—論義書を中心に—	表 1 参照	10 月 14 日	北川真寛

表 5 宗学連携事業 問講の再治・増補は高野山山内住職と共同で活動

勸学会の二日廻し期間中に、高野山の学道の歴史と「三密双修」についての講義を実施
『大日経疏』第一本下半の『本書』の書き下し文作成、『打集』のテキストデータ化と書き下し文作成
問講の謂立を集成した『法談論義要集』や『山王院並御影堂月並問講集』に収められた宗・釈論題の再治・増補

○南山進流声明研究会

表 6 活動実績

分類	日程	内容・発表者	詳細
研究会	4 月 19 日、4 月 26 日、 5 月 17 日、5 月 24 日、 6 月 7 日、7 月 5 日、 7 月 12 日、7 月 19 日、 7 月 26 日、9 月 13 日、 10 月 11 日、10 月 18 日、 10 月 25 日、11 月 15 日、 11 月 22 日、12 月 6 日、 1 月 24 日	『声明類聚』	三礼・如来唄・云何唄・出家唄・梵音・錫杖・散華・ 対揚・五悔・九方便・理趣経・四智梵語・心略梵語・ 不動梵語・四智漢語・心略看護・仏讃・吉慶梵語・ 吉慶漢語・阿弥陀讃・四波羅蜜・東方讃・南方讃・ 西方讃・北方讃
		『法則』	祭文
研究発表	11 月 25 日	湊田雲溪	表 1 参照

○中世密教聖教研究会

表 7 活動実績

日程	内容
9 月 1 日、9 月 2 日	高野山大学図書館にて、常喜院心覚撰述書などを調査。また、坂口が作成した『別尊要記』第四帖（底本は、高野山金剛三昧院本）の翻刻をもとに輪読。
12 月 9 日、12 月 10 日、 3 月 3 日、3 月 5 日	高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。
	高野山西南院の聖教を調査。また、『別尊要記』第四帖を輪読。

○プロジェクト「宗教と科学の対話」

表 8 活動実績

部門	分類	日程	発表者	発表内容
研究部門	研究会	7 月 24 日	高岡義寛	水クラスターの魅力と謎
	刊行物	平成 29 年 3 月	これまでの研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行	
実証部門	研究会			
	刊行物	平成 29 年 3 月	これまでの研究成果を『密教文化研究所紀要』別冊として刊行	

○巡礼遍路研究会（協力）

表 9 活動実績

日程	6 月 18 日 総本山善通寺遍閣		
記念講演	樞原禅澄（総本山善通寺法主）	生きることを学ぶ	
研究発表	加藤俊生	衛門三郎信仰の考察－三教指帰・現代遍路との関連－	
	村上昭彦	写し霊場巡礼者の研究－その展望と課題－	
	東近 伸	土佐清水市市野瀬・真念庵調査と今後の課題	

○二十一世紀高野山医療フォーラム

表 10 活動実績

日程 5 月 14 日 東京ビッグサイト 国際会議場（会議棟七階）	
講演者・司会・シンポジスト	テーマ
高木神元（高野山大学名誉教授）	【基調講演】科学技術文明における死生観
柳田邦男（作家・21 世紀高野山医療フォーラム理事長）	【基調講演】21 世紀高野山医療フォーラム 10 年の総括 一生と死の知を拓く－
柏木哲夫（淀川キリスト教病院理事長）	死の臨床 40 年の歩みとスピリチュアルケアの課題
山折哲雄（宗教学者）	ポスト高野山医療フォーラムの課題
島藺進（上智大学グリーンケア研究所長）	【特別講演】死生学の進展から宗教者の役割を問う
田坂広志（多摩大学大学院教授）	【特別講演】『死生観』を掴む－秘められた能力が開花するとき－
永田良一（新日本科学社長）	企業人と宗教心
【司会】柳田邦男、山折哲雄 【シンポジスト】垣添忠生、静 慈圓、南條輝志男、南野知恵子、南 裕子	【シンポジウム】高野山医療フォーラム 10 年を踏まえて、医療と宗教のあり方について提言したいこと

○高野山大学フジキン小川修平記念講座講演会

表 11 開催実績 ※平成 29 年度から業務担当は企画課へ移行

日程・会場	講演者	講演内容
10 月 1 日 グランフロント大阪 北館 B2 階 ナレッジキャピタル コングレコンベンシ ョンセンター ホール C	中村修二 (カリフォルニア大学サンタバーバ ラ校教授・2014 年度ノーベル物理学 賞受賞)	イノベーション ー日米環境の違いー
	鮎澤 聡 (筑波技術大学保健科学部准教授)	「祈り」は遺伝子をうごかすか？
	松長有慶 (高野山大学名誉教授、高野山金剛峯 寺前座主・高野山真言宗前管長)	「密教観法と祈り」
11 月 5 日 大阪市立中央公会堂	鈴木真二 (東京大学大学院教授)	大空への夢 ードローンから国産旅客機MR J までー
	高木紳元 (高野山大学名誉教授)	空海の宇宙論パラダイムと現代科学技術文明 ー乾坤は経籍の箱なりー

○刊行物

『密教文化研究所紀要』第 30 号 平成 29 年 3 月
『密教文化研究所紀要』別冊 『秘蔵宝鑰』の研究 第一分冊 平成 29 年 1 月
『密教文化研究所紀要』別冊 プロジェクト「宗教と科学の対話」 平成 29 年 3 月

(4) 図書館の活動

図書館においては、利用者本位の運営に心がけ、昨年度に引き続き通常 9 時から 20 時の 11 時間を開館時間とした。本学学生・教職員をはじめ同窓生や一般利用者への貸出・返却・レファレンスと、資料の発注・受入・整理等の他、下記の諸事業を図書館では展開した。

◇図書館報『それゆけ!としょかんだより』

毎月、上記の図書館報を発行して、館内では紙媒体でのフリーペーパーで公にして、インターネット上では、図書館のホームページで順次、100 号～110 号発行までを公開した。そこでは、前谷彰図書館長の論考をはじめ、図書館の近況やニュースを報じた。

◇『高野山大学図書館紀要』創刊号の刊行

執筆は当図書館員を中心として、88 頁・B5 版の紀要を平成 29 年 3 月に刊行した。同紀要は今後、年間を目途として刊行予定である。

◇図書館戸田文化講座開催

平成 28 年度における同文化講座は、下記の 2 回を開催して好評までに終えることができた。参加者は 40 名から 80 名程で、本学教職員・学生だけでなく、広く県外や高野山山麓の橋本市・かつらぎ町・和歌山市からも一般の参加者があった。

第 1 回 「戦国武将真田氏と高野山」

講師：岩倉哲夫(橋本市文化財保護審議会委員)

日時：5 月 20 日(金)16 時 40 分～18 時

場所：高野山大学 2 階 205 号教室

第 2 回 「空海と私」

講師：夢枕獏(作家)

日時：10 月 18 日(火)10 時 40 分～11 時

場所：高野山大学 2 階 204 号教室

◇図書館ミニコンサート開催

図書館の閲覧室を会場として、高野山内の演奏者と提携して、平成 28 年度において下記の 1 回のミニコンサートを開催した。参加者は本学教職員や学生をはじめ高野町の町民から 40 人程度の参加者があった。

第 1 回「クリスマスコンサート」

演奏：浦上知子（高野山高校音楽講師）

日時：12 月 6 日(火) 16：40～18：00

◇図書館茶話会開催

図書館の閲覧室を会場として、本学裏千家茶道部と提携して、平成 28 年度において下記の 1 回の同茶話会を開催した。参加者は 50 人程度で、本学学生や教職員が前谷図書館長を囲んで忌憚のない意見交換会ともなった。

なお、この図書館茶話会とは別に 11 月 1 日（日曜日）のオープンキャンパスの際に、本学裏千家茶道部は図書館閲覧室において見学者対象にお茶の接待をした。

第1回「図書館茶話会」

主催：茶道部

後援：高野山大学図書館

日時：12月20日(水)17時～18時

場所：図書閲覧室

※上記図書館茶話会とは別に、5月29日(日)・7月17日(日)・9月25日(日)・11月1日(日)の4度のオープンキャンパスにて茶話会を開催

主催：裏千家茶道部

後援：企画課

場所：図書館閲覧室

◇ミニコーナー設置

閲覧室内に下記のミニコーナーを3回にわたり設けて関連図書の展示を開催した。

「真田家特集」 4～8月

「華岡青洲特集」 8～9月

「夢枕獏特集」 10～3月

◇展示コーナー設置

閲覧室内の展示コーナーにおいて下記の展示を開催した。

「四季折々の高野山」(写真)4～6月

「チベット忿怒の女尊ペンデンラモ」廣安芳子(絵画)4～6月

「仏画」静先生の講義受講生 7～9月

「胎蔵界・金剛界曼荼羅」静慈圓 10～12月

「弘法大師像」静先生の講義受講生 2～3月

◇給茶機とコーヒーサービス

前年度に引き続き、利用者サービスの一環として、お茶の無料サービスとコーヒーを安価に提供するサービスを導入。それに合わせ休憩スペースを設けた。

◇古本市の開催

11月6日、図書館の除籍本を中心に図書館古本市を開催した。

◇他大学・関係団体との提携

2016年和歌山地域図書館協議会フォーラム「華岡青洲とその門人たち」講演会参加

日 程：2016年10月1日(土) 14:00～16:00

場 所：和歌山大学松下会館

講 演：池田 章氏（医聖華岡青洲顕彰会 顧問）

「医聖華岡青洲とその生涯」

資料紹介：高橋 克伸氏（元和歌山市立博物館副館長）

「門人からみた春林軒における青洲の医療について」

◇クリアファイルの作成

所蔵の貴重資料「両界曼荼羅図」（道教写本）の梵字を使用して作成した。

◇一筆箋作成

クリアファイルと同様に、所蔵の貴重資料「両界曼荼羅図」（道教写本）の梵字により作成した。

◇篠田禹子文庫の整理

前年度に引き続き、平成28年度についても、表記文庫の整理を、本学裏千家茶道部との提携により行った。なお、同文庫は東京都足立区在住の篠田禹子氏より寄贈を受けた茶道関係の書画骨董類である。

3. 高野山高等学校

(1) 総論

高野山高校では、平成28年度入学者が42名であり、目標数の60名に届かなかったため、次年度は目標値に届く努力をしていきたい。特に地元の高野山中学校からの入学者を増やすよう努力していく。

平成28年度においても現行の取り組みを継続して実施する。生徒指導においては宗教教育を中心に据え、心の教育に力点を置き、卒業生や保護者から一定の評価を得ている。

今後は、経営基盤を安定させるために生徒増を図る努力と、従来以上の収入を確保するための事業展開が必要であることから、通信制課程を平成27年9月1日に開校し、28年度は本校19名、東京19名、大阪3名の計41名の生徒を預かり、9月に1名。3月に8名の卒業生を送り出した。本年は創立130周年の記念の年にあたり、3月、宗教科生徒により、高野山から長谷寺まで徒歩にて祈親灯を運び無事に奉納した。11月3日には比叡山高校野球部を招待し、本校野球部とで交流親善試合を実施した。

(2) 現状

①高野山高校全日制の生徒数

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
生徒数(宗教科生徒数)	145(23)	143(27)	152(25)	145(21)	135(19)
入学者数(宗教科生徒数)	54(11)	46(10)	63(8)	52(9)	42(6)
高野山大学への進学者数	11	5	6	3	5

②分析

■生徒数の推移

平成28年度の入学者は、平成27年度に比べて減少した。今後、入学者数60名を達成できるよう効果的な募集活動に努める。特に真言宗関係寺院への積極的な働きかけが重要である。

(3) 平成28年度事業報告

①業務改善

■校長・教頭による生徒募集の強化

生徒募集の中学校、塾訪問活動を、校長・教頭・教務主任を中心に実施した。また地元の高野山中学校から入学した生徒には授業料減免の措置を講じており、一定の

結果が得られてきた。平成 29 年度、高野町からの補助金が 300 万円（150 万円増額）になるので本授業料減免の措置は継続して実施する。

②投資的事業

■スクールバスの運行

紀の川筋からの生徒獲得を企図し、スクールバスを運行。平成 28 年度の利用生徒は 20 名。平成 29 年度利用生徒 21 名の他、寄宿舎生が高野町外の病院へ通院する際や帰省の折、片道 500 円で利用出来る事も可能で好評である。

（４）事業の概要

①全日制課程 教育に関する取り組み

■普通科・宗教科における教育内容

・普通科特別進学コース・自己探求コース

普通科特別進学コースでは演習の時間を設け、個別指導を重点におき、自己探求コースにおいて、数学では公文式教材を使用し個別指導、国語は漢字能力検定用の教材を使用し個別指導、英語ではインターネットを利用した個人指導を行なった。英、数、国に関しては 3 学年共、習熟度別にクラスを編成して授業を実施している。

また、1 学年の基礎学力未定着者に対しては、「学び直し」の補習を、3 年生も希望進路に向けて、放課後や土曜日を利用し、英、数、国の補習授業を実施した。長期休暇には各学期に定期考査の基準点に到達していない生徒を対象に、補習や進学・就職対策講座を実施している。

・普通科スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）

スポーツコース（硬式野球・バスケットボール・サッカー）では、体育理論やスポーツⅡの授業において、それぞれの競技をより専門的に学び、技術の向上は勿論、指導方法なども体験の中から学んでいる。硬式野球部は秋季近畿地区県予選において 2 年連続で準優勝し、近畿大会にて大阪 1 位校の上之宮太子高校に敗れるが、甲子園に一步步近づいている。女子ハンドボール部は秋季県大会に於いて 1 勝を上げる。

・宗教科

宗教科では、創立 130 周年事業として平成 28 年 3 月 17 日から 21 日まで、祈親灯を携え、長谷寺まで行脚した。

■国際交流

- ・平成28年12月25日～12月30日、インターアクトクラブがタイ研修を実施。
- ・平成29年2月6日～2月9日、2年生スポーツコースがグアムに研修旅行を実施。
- ・平成29年3月5日～3月8日宗教科台湾研修を実施。

■学校行事

実施した主な年間行事は以下のとおり。

1. 音楽法会・育友会総会 5月28日(土)
2. 青葉祭前夜祭 6月14日(火)
3. 青葉祭 6月15日(水)
4. 明神社大祭 10月16日(日)
5. 四国遍路 10月29日(木)～11月 2日(水)
6. 南嶺祭(文化祭) 11月 5日(土)、 6日(日)
7. 追悼法会・公開授業 11月19日(土)

■ボランティア活動

報恩日に金剛峯寺での清掃奉仕を実施している。

普通科自己探求コースと特別進学コースは、7月12日～15日の間、東北に研修旅行を実施。釜石市にて、被災地ボランティア活動を行った。

■平成28年進学実績

今年度は、和歌山県立医科大学や、近畿大学に過年度生であるが進学。来年度が楽しみである。

<普通科（特別進学）>

駒澤大学(仏教学部) 専修大学(文学部・人間科学部) 帝京大学(法学部)

龍谷大学(法学部) 京都橘大学(文学部)2 桃山学院大学(法学部)

和歌山県立医科大学(医学部)(卒) 近畿大学(経営学部)(卒)

<宗教科・普通科（スポーツ／自己探求）>

びわこ成蹊スポーツ大学(スポーツ学部) 羽衣国際大学(現代社会学部)3

岐阜聖徳学園大学(外国語学部) 高野山大学(文学部) 6 阪南大学(経済学部) 2
城西大学(経営学部) 神戸学院大学(法学部) 神戸国際大学(経済学部)
太成学院大学(人間学部) 大阪学院大学(経済学部) 大阪観光大学(観光学部)
大阪産業大学(経済学部) 大阪大谷大学(人間社会学部) 帝塚山大学(心理学部)
帝塚山学院大学(リベラルアーツ学部) 帝塚山学院大学(人間科学部)
桃山学院大学(経済学部) 徳山大学(ビジネス戦略学部) 日本体育大学(体育学部)
名古屋学院(スポーツ健康学部) 2 流通科学大学(人間社会学部)

専門学校

< 普通科 (特別進学) >

南奈良看護専門学校

< 普通科 (スポーツ／自己探求) >

京都技術専門学校 大原学園専門学校 大阪 IT 会計専門学校

大阪医療福祉専門学校 大阪保育福祉専門学校 日本工学院専門学校

名古屋リゾート&スポーツ専門学校 履正社医療専門学校

就職

< 普通科 (スポーツ／自己探求) >

ビッグテクノス株式会社 大神鉄工所 池田鉄工株式会社

②生徒募集に向けた取り組み

中学校訪問は、大阪、兵庫、奈良、和歌山を中心に四国4県、東京23区、横浜方面にも展開した。学習塾への訪問は、大阪、奈良、和歌山を中心に展開した。全国高野山真言宗寺院(他宗派寺院含む)へのダイレクトメール郵送。また、以下のような募集活動を実施した。

■学校説明会

・中学校主催

和歌山市中学校合同説明会 (9月20日)

伊都地方中学校合同説明会 (10月14日)

奈良県中学校合同説明会（１０月２１日）

泉南地区中学校合同説明会（１０月１０日）

高野山中学校 説明会（１１月１０日）

・ **学習塾、各種団体主催**

中和教育研究会（ ９月１８日）

五ツ木書房主催私立学校合同進学説明会（１０月 ９日）

泉州私塾連合会主催私立学校合同進学説明会（１０月３０日）

全寮協主催「寮のある学校説明会」

名古屋（11/11）、大阪（11/12）、横浜（11/18）、東京（11/19）

■ **体験入寮・体験スクール**

対象者に施設・設備を開放し、各コースの詳細説明や、実際に一日寄宿してもらい寮生活を体験して頂く事業。第１日目午後から寮見学と宿泊体験。翌日は学校説明会で各学科、コースのプレゼンテーションにより、本校の教育内容を分かりやすく提示した。イベント告知の展開は、中学校、塾への訪問の際、当イベントのチラシを持参。過年度の資料請求者へも案内を送付した。

第１回：平成２８年 ８月２７日（土）・２８日（日）

第２回：平成２８年１１月１２日（土）・１３日（日）

第３回：平成２８年１２月１０日（土）・１１日（日）

参加者：４２名（３回の合計）

■ **公開授業**

実施日 平成２８年１１月１９日（土）

■ **公開実力テスト**

和歌山：平成２８年１２月１１日（日） ４５名

■ **教育講演会**

大阪、奈良、和歌山の学習塾（約 1,300 件）にイベント案内を送付。本教育講演会は、一度に多数の塾関係者や教師と親交を保ち、本校の教育内容を披瀝する事の出来る機会である。

・伊都橋本

日 程：平成28年7月14日（木）
会 場：橋本市産業文化会館
対 象：伊都地方中学校長及び進路指導担当教員
演 目：主体性と自律性—しなやかな心を育てる視点
講 師：森崎雅好（高野山大学文学部准教授）

・大阪

日 程：平成28年9月12日（月）
会 場：大阪産業創造館
対 象：大阪・兵庫・奈良塾関係者
講 師：滝川 洋二 先生（東海大学教育開発研究所教授）
講 題：「先端科学について～科学の楽しさを切り開く～」
参加者数：65名

・和歌山

日 程：平成28年9月23日（金）
会 場：和歌山ビッグ愛
対 象：和歌山県内塾関係者
演 目：主体性と自律性—しなやかな心を育てる視点
講 師：森崎 雅好 先生（高野山大学文学部准教授）
参加者数：28名

■テレビ広告

和歌山テレビ制作で私学3校による学校紹介番組を放映
平成28年 8月 6日（土）12:00～12:45
平成28年11月 8日（火）19:00～19:45

■テレビ放映

平成28年11月3日（木） テレビ和歌山 学園130周年記念交流試合 対
比叡山高等学校戦の様子を放映

■新聞記事掲載

平成28年 5月 9日 スポーツ報知 通信制課程 寺西飛香留 ゴルフ戦績
 平成28年 8月10日 産経新聞 「文化財に思いはせ」
 平成28年 8月 6日 朝日新聞 「高野山の遺跡の出土品を高校生が洗浄」
 平成28年11月 4日 毎日新聞 「高野山高校と比叡山高校が歴史的対戦 野球部初の交流試合」
 平成28年 7月22日 毎日新聞 「被災地の現状を知る 高野山高校生岩手でボランティア活動」
 平成28年10月 2日 毎日新聞 「県二次予選 高野山高校、智弁和歌山4強」

■平成29年度入試結果

出願区分	受験者数	合格者数	入学手続き者数
専 願	41	41	41
併 願	37	37	1
合 計	78	78	42

■平成29年度以降の事業展開

28年3月末の財務状況により、生徒募集拡大の方途を探ることを目的に高校再生委員会を発足させ、寄宿舍改修計画を策定し学園法人本部主導で取り組みを開始した。平成28年11月24日の理事会、評議員会に於いて寄宿舍改修を軸とした再生計画が承認された。また、次年度の支払資金不足に備え、本部部門から50,000,000円を借り入れる第一次補正案が承認された。平成29年3月29日開催の理事会に於いて、寄宿舍改修請負業者及びその改修費の見積案が承認された。改修工事請負業者は積和建設阪和株式会社で総事業費89,537,400円（税込）（内 耐震診断料 4,379,000円）。また、改修に充てる資金は、法人本部が本山から平成29年度に100,000,000円借り受ける事も確認された。尚、他の費用捻出の手立てとして、平成30年度「和歌山県私立学校施設等耐震化整備費補助金」採択を目指し、平成29年度、当該補助金の事業登録をする。また、高野山高等学校同窓会を中心に法人本部と連携しながら「寄宿舍改修・耐震化事業の為に寄付金」を募る事も確認された。また、建設から37年経過している校舎の耐震補強やボイラーの改修、重油用タンクの修繕、校舎棟のトイレの改修等相当な経費を要する事業が残っており、事業活動の長期計画策定が必要である。

平成29年3月1日に山添亀法師より50,000,000円の寄附を受けた。本宗寺院子

弟の入学者の奨学金として充当させていただく予定である。

通信制課程普通科

1. 運営方針

- (1) 高野山高校通信制課程の構築に際し、単に生徒数の増大だけを考えるのではなく、高野山全体の繁栄に貢献できるような視点から計画運営するように心がける。具体的には、通信制の生徒数増加に伴い、高野山訪問者がその保護者、関係者等の同伴により増加し、また宿坊等の利用も増えるように努力する。
- (2) 他の通信制高校とは異なり、即物的な教育ではなく、人間の根本をなす心の教育、一寸先は闇の、予測不可能な、変動めまぐるしい現在の世の中でしっかりと生きていける心の教育、例えば弘法大師の偉大な思想に基づき、写経や瞑想等のスピリチュアルな癒しで他校との相違点を明確にする。
- (3) 教師中心ではなく生徒を中心とした、生徒に寄り添う教育。生徒の発達課題を一緒に考えるように努力する。

2. 生徒数（入学者数）

所属 年度	本校	大阪学習 センター	東京学習 センター	合計
平成 27 年度	8	0	1	9
平成 28 年度	19	3	19	41

3. 事業報告

(1) 生徒募集

・入学相談・説明会

A. 大阪学習センター

7月30日, 8月(6日・10日), 9月(3日・7日・10日・14日)
10月(1日・29日)

B. 東京学習センター

8月27日, 9月25日, 10月30日, 11月26日, 12月3日
3月12日, 3月29日

- ・通信制高校合同説明会

12月3日(資料参加), 3月12日(ブース参加)

- ・全国の真言宗各寺院, 近畿圏の中学校・学習塾, 東京23区の公立中学校・高等学校, 四国4県中学校, 横浜市内中学校等への入学案内等送付。
- ・『高野山教報』への募集広告掲載。

本校は完全な広域制なので日本全国どこからでも入学できる。広告手段として高野山真言宗寺院のネットワークを活用するように努力した。

(2) スクーリング・特別活動

基本的には、できるだけ多く高野山高校本校での集中スクーリングに参加させるように努力した。同時に保護者、生徒関係者も高野山に来ていただけるように宣伝をした。

A. スクーリング

- ① 8月1日～3日(高野山高校)
- ② 8月24日～26日(高野山高校)
- ③ 12月19日～21日(高野山高校)
- ④ 12月26日～27日(東京学習センター)
- ⑤ 3月2日～3日(東京学習センター)

※上記の他にも、在校生の状況に合わせて、本校と各学習センターにて個別にスクーリングを実施した。

※東京学習センターに通う生徒については当地で履修が完結できるように横浜清風高校からの講師派遣等の協力を得た。

B. 特別活動

廟参, 金剛峯寺見学, 写経体験, 写仏体験, ねぶた制作, 宝来づくり, 霊宝館文化財ふれあい体験, ごま豆腐作り体験等

(3) サポート校の組織化

通信制課程の場合、生徒募集に塾等と提携して生徒募集を効果的に実施できることが多い。そのために業務提携覚書を交わしてサポート校になってもらっている。本校は全国どこかでも募集可能なので全国でサポート校を募集している。現在、関東、近畿にまたいで 20 校のサポートを組織している。

(4) 進路状況

平成 28 年度の卒業生 9 名の進路は、大学進学 1 (東洋大学・文)，専門学校 1，就職 4，浪人 3

4. 今後の課題

- (1) 生徒数の増加の一語に尽きる。通信制高校としては後発組であり、地の利の不便さ、など種々の制約要因が散在しているが、お大師さまの高野山の特色を生かして、他校には見られない精神修養に最適な学校として特色化をはかり高野山の発展に貢献したい。
- (2) 高野山真言宗のネットワークを活かし、教育問題に関心のある寺院にサポート校になっていただいたり、子供問題相談所（不登校、ひきこもり等の相談所）を開設していただく等、本校の通信制と連携して生徒を育成していきたい。また、このことが高野山真言宗の繁栄につながればと期待している。
- (3) 東京学習センターについてはこれまで 20 名の在籍生徒全員が NP0 法人高卒支援会経由で受け入れた生徒であった。今後は東京学習センターのスタッフによる独自の募集で生徒を獲得する事が望まれる。

4. 高野山幼稚園（高野山こども園）

高野町との公設民営の形態で指定管理者として「高野山こども園」の運営を請け負い、1歳児から5歳児を対象とした長時間保育、3歳児から5歳児のみを対象とした短時間保育、預かり保育、長時間保育児を対象とした延長保育を実施し、3年目の運営を終えた。

この公設民営での「高野山こども園」の運営は、本学園が目指す宗教にもとづく「保育」という目的の相違に課題はあるものの、これまでの連携の成果の上に立ち、将来的な民設民営形態でのこども園の運営も視野に入れている。

（1）事業の概要

①教育に関する取り組み

■教育内容

健康・人間関係・環境・言葉・表現の5領域並びに、道徳的・芸術的・宗教的情操教育を取り入れた教育を行っている。

■早朝保育と延長保育の実施

園児に対して、午前7時半からの早朝保育や午後5時以降の延長保育も行っており、地域の保護者からは好評を得ている。こども園として地域の子育て支援の主体として活動している。

■宗教教育

高野山という地域の持つ風土的特性にも考慮した形で宗教的・道徳的な要素を加味した教育・保育を実施し、保護者からも好評を得ている。

②運営に関する取り組み

■和歌山県・高野町との協議

和歌山県・高野町と協議して指導を受けながら、業務・運営に関する事項の改善に努めてきた。

■施設・設備の環境整備

高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を指摘してきたが、全てが改善されたわけではなく、今後も高野町との協議の中で積極的に施設の整備や改善を進めていく。

（２）今後の課題

■「高野山幼稚園」と「高野山保育園」の一体化とその課題

現在は、公設民営方式として幼保一体の事業を行っているが、公設民営方式での学園の特色を生かした教育・保育の実施や創意工夫をさらに進める可能性を探ることが課題である。

以 上

財務状況の全般的説明

1. 平成28年度の財務状況

高野山学園における平成28年度の財務状況において、ここ数年の本学の課題の一つである学生・生徒数の減少が関係し、学生生徒等納付金収入は前年度と比べ1,011万円減少している（当初予算より647万円増加）。

18歳以下人口が減少する中で学生・生徒の確保は困難な時代であり、改めて本学が置かれているポジションを再確認し、受験生のニーズに応える学園作りをおこない、昨年度と同様ではあるが費用対効果を考えた募集戦略を立て学生・生徒数の増加に努めていく必要がある。授業料前受金・入学金前受金ともに前年より増加していることから当年の取り組みには一定の効果があったものと考えられるので、さらなる検討と努力が求められる。

（1）資金収支計算書

①資金収支計算書の概要

資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。

②平成28年度の財務状況

■寄付金収入とその処理

大学創立130周年記念事業寄付金および一休院山添亀法氏殼の特別寄付等により、寄付金収入が15,275万円増加した。前者は130周年記念事業の運営に充てられ、後者は奨学金のための特定預金を開設、次年度以降運用を行う。

（2）事業活動収支計算書

①事業活動収支計算書の概要

■事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度における事業活動収入と事業活動支出を対比し、収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の収支（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。

②平成28年度の財務状況

■事業活動収支の動向

平成28年度決算では、前年度決算と比して事業活動収入は10,803万円の増加、一方

事業活動支出は 7,168 万円の減少となっている。収入の増加については、(1)－②でも説明したように寄付金の増加が影響している。支出の減少については、役員・職員の退職にともなう退職給与引当金繰入額の減少に加え、管理経費の全体的な支出削減によるものである。組織としてより厳密に経費投入の見極めを行う体制が進んでいる一方で、今年度は補助金収入が学園全体でやや減少した。学生生徒数の増加を狙いつつも、学園全体として引続き補助金収入の増加に向けて改革に努める。

(3) 活動区分資金収支計算書

■活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書に当たる。資金収支計算書の決算額を三つの活動区分（教育活動／施設整備など活動／その他の活動）に分けて表しており、活動毎の資金の流れを明らかにするものである。

(4) 貸借対照表

①貸借対照表の概要

■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、繰越収支差額）で表す。貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

②平成 28 年度の財務状況

■資産の減少

平成 28 年度末では、特定資産が 4,926 万円減少している。この減少は、高校拡充整備引当特定資産及び高校福祉保健引当特定資産の取崩の影響によるものである。この現金化により高等学校の資金を流動化、寮の改修に充当する。大学ではサテライトキャンパスの移動経費を経常運用資金で賄ったため、次年度以降同様に特定資産を取り崩し、流動資産の確保を図る必要がある。

■純資産の減少

平成 28 年度末では基本金が全体として 2,056 万円減少している。この減少は、平成 27 年施行の学校法人会計基準の改正により、これまで取崩不要とされた第 4 号基本金（恒常的に保持すべき金額として算出された、1 か月分の運転資金）を当年度で実態に即して再算出・取崩を行うとされたため 8,270 万円の取崩を実行した影響による。（なお、固定資産の取得により第 1 号基本金は 6,204 万円繰り入れている）